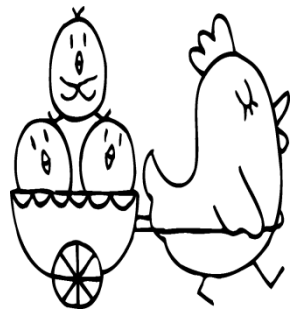
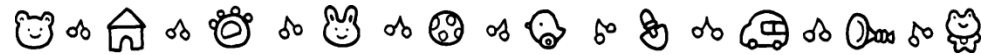


# ひよこだよ

草笛学園 8月号



8月に入りました！外からはセミの鳴き声が聞こえるようになり、いよいよ夏本番といった季節になりました。日差しを浴びただけでも汗がしたたりますね。子どもたちはなおさら、身体に熱がこもりやすいです。なので、おうちでは水遊びをしてクールダウンしたり、海や川に行って水の冷たさを感じたりするのも良いかもしれませんね。温暖化のせいでしょうか、年々気温が高くなってきています。水分補給をこまめに行い、熱中症には十分お気を付けてください。



## <わがままになってしまう…??>

くり返される「だだこね」に対して、はじめての子育てに挑戦しているお母さんお父さんは、子ども以上にいらだちながら日々を送っているかもしれません。そのいら立ちゆえに「ダメ！」を連発したり、ことさら無視したり、ときには叱りつけることになってしまうでしょう。「だだこね」の意味が分からないので、子どもの精神的な「間」が持てない状態におちいっているのです。子どもにとっては、その抑圧感が一層いらした心の状態を強めることになります。

相手の出方をうかがう力の備わった「だだこね」は、子どもが自分と相手の要求を2つのお皿のように並べて、どちらから食べようかと思案しているようなものです。そんなとき、「相手の提示した皿も魅力あるものとして受けとめ、その2つの間で揺れ動きながら、切り替えたり、折り合ったりすることができるように、子どもの心を整えてあげましょう」と分かりやすく伝えます。

そのうえで、もっと大切なことを分かち合いたいと思います。つまり、「がまん」という心のはたらきは、「がまん、がまん」と子どもを説得するような「しつけ」で身につくものではありません。がまんは、自分で自分をコントロールすることであり、自分をコントロールできる確かな自分、つまり自我の発達によって可能になるのです。

たとえば、自分の失敗から立ち直る力は、生活や遊びのなかで、自分への手ごたえ、達成感の蓄積から生まれてくることです。自分で片づけられる喜び、自分でクツをはいたりシャツを着る喜びは、たくましくて、しなやかな自我につながります。また、新しい遊びがたくさんあり、満足して遊びこめることは自我を育てますが、それだけでなく、その遊びを自分で締めくくる経験にもつながります。本当に楽しいことを知っている子どものみが、楽しいことには満足の次にピ

リオドがあることを知り、そしてほんとうの「がまん」や「おしまい」の意味を知ることができるのです。大人も、子どもの満足感、達成感を実感できるからこそ、「もうおしまいね。がまん、がまん」ということばを、躊躇なくかけることができるのではないのでしょうか。このようなメリハリが、今の子どもたちの生活にはたらないのではないかと思います。

つまり、生活でも遊びでも、「楽しかったね」「よく頑張ったねえ」など感じられる余韻が残ることが大切なのです。このような余韻は、子どもだけでなく、大人の労働や生活にも必要です。しかし現実には、次々とこなさなければならないことが多く、「やったー！」という達成感や余韻にひたる余裕はありません。ほんとうのがまんは、主人公として自分の時間をコントロールできることですから、がまんが意味を持つ生活がいかなるものかを、子どもとともに考えたいものです

『やわらかい自我のつぼみ～3歳になるまでの発達と「1歳半の節」～』白石正久著

次回のひよこ教室は…『みずあそび』をします！

ひよこ① 9月2日(土)

ひよこ② お休みです

<持ってくるもの> 水着(もしくは水あそびパンツ)・水筒・着替え・タオル

※ご家族の方も濡れても大丈夫な格好でおこしてください

※天候によっては「からだあそび」に変更します

## 『参加される皆様へ』 ～ご協力をお願いします～

- ・お休みされる場合は、学園までご連絡下さい
- ・参加費は無料です。(おたよりはホームページに記載され、通信費が必要ないため) 製作やクッキングの活動の時には、材料費として100円いただきます。その都度連絡します
- ・草笛学園遊戯室での活動となります ・靴は下駄箱に入れて下さい
- ・水分補給のため、お茶を用意して下さい(ジュース類は控えて下さい)
- ・きょうだい児の参加はご遠慮下さい。預け先がない場合は事前に職員までご相談下さい
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきて下さい

## 【感染症対策について】(※国の方針に準じて対策を見直しています)

- ・参加者や職員共にマスクの着用は自由とします。但し、クッキングの際やその時々感染状況をみて着用をお願いする場合があります
- ・原則大人1名・子ども1名の参加をお願いしてきましたが、今後はその限りとはしません。但し、グループによっては参加者が多い場合がありますので、担当職員にご相談下さい
- ・入室前の検温・申告は不要ですが、朝の検温等、引き続き体調管理をお願いします。37.5度以上の発熱がある場合は参加をお控え下さい
- ・園内の換気や消毒は引き続き続けます

